

耳鼻咽喉科学

責任者・コーディネーター	耳鼻咽喉科学講座 佐藤 宏昭 教授				
担当講座・学科（分野）	耳鼻咽喉科学講座、歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野				
担当教員	佐藤 宏昭 教授、志賀 清人 教授、山田 浩之 教授、平海 晴一 准教授、桑島 秀 助教、佐藤 護人 非常勤講師、河嶋 寛 非常勤講師、大森 孝一 非常勤講師				
対象学年	4	区分・時間数	講義	15コマ	22.5時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

耳鼻咽喉科学は生命維持に重要な気道や嚥下を扱うと同時に、ヒトの高次な精神活動に必要な聴覚・言語というコミュニケーションに関わる器官も扱う。このような領域の障害を究明し、機能と形態の修復を図り、さらに予防を目指す学問である。

・教育成果（アウトカム）

耳鼻咽喉科学及び関連領域における基礎的知識を習得することで、臨床医学全般の中における耳鼻咽喉科学の位置、他科との関連性について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 2,4,5 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	耳鼻咽喉科・頭頸部領域の臨床解剖学的事項およびその機能を説明できる。
2	聴覚検査、平衡機能検査、嗅覚検査、味覚検査など耳鼻咽喉科・頭頸部領域の主たる検査法と、その検査結果から障害の病態などを説明できる。
3	耳鼻咽喉科・頭頸部領域の主たる疾患をあげ、その病態、診断、治療など疾患に関わる一般的な知識を説明できる。
4	口腔を中心とした疾病の診断、治療、予防について説明できる。
5	聴覚検査で使用する「音」の特性と検査の目的を知る。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	目標番号
講義	3/30(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	佐藤 宏昭 教授	聴覚・身体平衡生理	2,3
講義	3/30(火)	4	耳鼻咽喉科学講座	佐藤 宏昭 教授	難聴・めまいをきたす疾患	3
講義	4/13(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	佐藤 宏昭 教授	聴覚検査	1,2,3
講義	4/13(火)	4	耳鼻咽喉科学講座	佐藤 宏昭 教授	人工聴覚器	3
講義	5/11(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	佐藤 護人 非常勤講師	鼻アレルギー	2,3

講義	5/11(火)	4	耳鼻咽喉科学講座	河嶋 寛 非常勤講師	気管切開・嚥下障害	2
講義	6/1(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	平海 晴一 准教授	外耳・中耳疾患	1,2,3
講義	6/1(火)	4	頭頸部外科学科	平海 晴一 准教授	中耳手術、中耳疾患合併症	2,3,5
講義	6/8(火)	3	頭頸部外科学科	志賀 清人 教授	喉頭疾患・腫瘍	3,4
講義	6/8(火)	4	耳鼻咽喉科学講座	志賀 清人 教授	口腔咽頭疾患・腫瘍	4
講義	6/8(火)	5	耳鼻咽喉科学講座	平海 晴一 准教授	顔面神経麻痺	1,2
講義	6/15(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	大森 孝一 非常勤講師	音声障害	3
講義	6/15(火)	4	歯学部口腔顎顔面再 建学講座口腔外科学 分野	山田 浩之 教授	歯科学	1
講義	6/22(火)	3	耳鼻咽喉科学講座	桑島 秀 助教	鼻副鼻腔疾患・腫瘍	4
講義	6/22(火)	4	耳鼻咽喉科学講座	桑島 秀 助教	唾液腺疾患、気管食道異物	3

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 改訂第2版	喜多村健 他著	南江堂	2007
推薦図書	ENT and Head and Neck Surgery (Oxford Handbook) 2nd ed.	Rogan Corbridge、 et al	Oxford University Press	2010
参考書	Otolaryngology and Head and Neck Surgery	Warner G, et al	Oxford University Press	2009
参考書	Jatin Shah's Head and Neck Surgery and Oncology 4th ed.	Jatin S、 Patel S、 Singh B	Elsevier / Mosby	2012
参考書	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版	森山 寛 監修	医学書院	2018

・成績評価方法

学期末に筆記試験を行う（認知領域；総括評価）。
講義内容の理解度を確保するため講義中に口頭試問を行う（形成的評価）。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書・講義室の音響設備

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	純音オーディオメータ	4	聴力検査実習
講義	自記オーディオメータ	1	聴力検査実習
講義	インピーダンスオーディオメータ	1	聴力検査実習
講義	誘発電位検査装置	1	ABR（聴性脳幹反応）検査
講義	誘発反応測定装置	1	ASSR（聴性定常反応）検査
講義	耳音響放射測定装置	2	内耳機能検査
講義	音叉	3	聴力検査
講義	電気眼振計（ENG）	1	平衡検査
講義	ビデオ式眼振計測装置（VOG、VNG）	1	平衡検査
講義	赤外線眼振画像TV装置（IEM-2）	1	平衡検査
講義	耳鼻咽喉科診療ユニット	4	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ビデオ耳鼻咽喉スコープ	3	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ファイリングシステム	3	耳鼻咽喉科診察実習
講義	ビデオ感音難聴とその成因1) 上顎腫瘍手術2) 喉頭腫瘍手術3) 気管切開手術	4	手術他供覧
講義	ビデオ装置	1	代表的疾患の供覧
講義	模型	4	耳、鼻、咽喉頭の解剖理解のため
講義	パソコン一式（Dimension9200）	1	講義資料作成